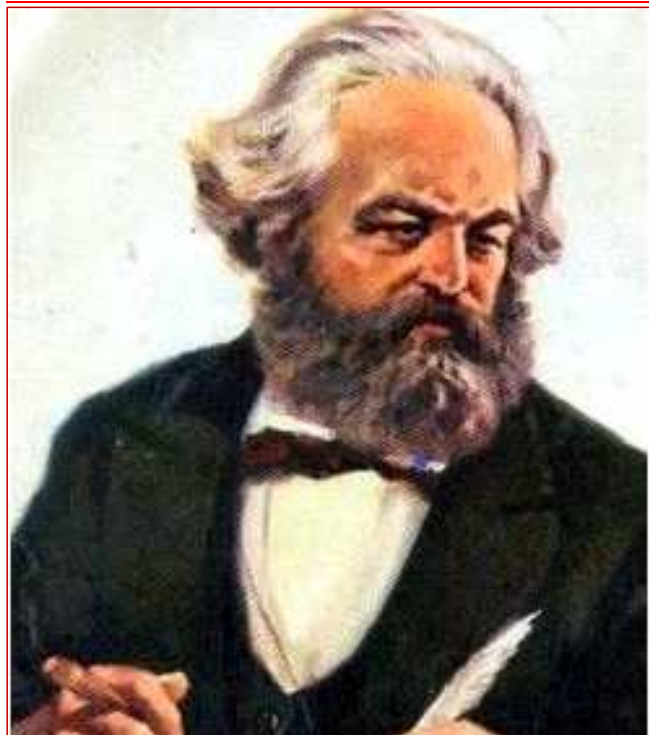


次回は 第77回「資本論を読む会」

☆7月28日（月曜日）午後6時30分—Zoomで開催

第4章「循環過程の三つの形」（続き-後半部分）[岩波文庫(四)p164.7L-]。



DAS KAPITAL

6月30日（月曜日）、恒例の「資本論を読む会」を開きました。参加者は前回と同じく7人でやりました。欠席した定例メンバーのSさんはご旅行中、Kさんは仕事のテーマ勉強のため10月まで休会と報告が来ていました。

今回は「第4章 循環過程の三つの形」の前半部分。これまでの貨幣資本、生産資本、商品資本の三つの流過程を再整理するような内容でした。今までG—W—P…云々とアルファベットに悩まされましたが、そのお陰様で、皆さんも、今回は大分、分かりやすくなったような気がしたようです。

要点は下記「レポーターから」を見て頂きたいと思いますが、第4章の真っ先の第1行目に出てきた「三つの形は、Ckを総流過程とすれば、次のように表示されうる。」(p149)とあるが「Ck」って何の略語？から討論は始まりました。いかなる解説書の類いでも、この略語の説明はありませんでしたが、終わってから懇親会

の席で、あのA I (Copilot)さんに聞いて見ました。「資本論第2巻第4章のCkとは何の略語ですか？」と聞くと、A Iさんは「Ckは、総流過程（Circulationsprozess des Kapitals）を意味する略記です。ここでのCkは、W（商品）— G（貨幣）— W（商品）という一連の流過程を簡略化して表したもので、商品が貨幣に変わり、再び商品に変わる一連の運動を指します。マルクスはこの略記を使うことで、流過程と生産過程の関係をより明確に示そうとしています。」と出てきました。賢いですね。これで第4章の意味が分かっちゃった気がしましたね。レポーターのKatoちゃんのおかげは勿論のことですが…。次回は第4章の後半部分です。レポーターは継続です。

懇親会では前回から続いて「第1巻の最初から読み始めたい人を募集しては?」「第2『資本論を読む会』を作ってはどうか」などの話や、都議選概括や自民党「旧安倍一強を支えた層」の多くが国民民主を離れ、参政党になだれ込んでいる…とか等と、酒宴は遅くまで盛り上がりしました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Katoちゃん

第4章 循環過程の三つの形

I) G—W…P…W'—G'

II) P…Ck…P

III) Ck…P…(W')

・Ckを総流過程として三形態をみれば、全てその過程の前提であり結果である。つまり各要因が出発点であり、通過点、復帰点である。生産過程が流過程への繋ぎであり、逆に流過程が生産過程の繋ぎであると言える。三形態の循環の共通は、価値の増殖である。

・円は各々が出発点で復帰点であるが、しかし資本は各形態で循環しており、各々の個別産業資本が三つの循環を同時に行っており、資本の総循環は三つの形態の統一である。

・貨幣資本、生産資本、商品資本への循環は断続的である。現実には、第1の貨幣資本から生産資本へ循環後、新たな第2の貨幣資本を転化し生産資本へ循環していくというように、資本主義生産は連続的である。産業資本の現実の循環は、流過程と生産過程との統一だけでなく、その三つの循環全部の統一である。

・資本主義的生産、運動形態は、資本価値がその循環過程で受ける諸革命は影響しない。価値革命は何らかの方法で克服する。個別資本で価値革命が行なわれれば、その個別資本家が滅亡するだけである。価値革命で運動が止まり、資本が存続できないということは、逆に資本は運動維持して存続していることとなる。

・循環の定式を純粋に考察するために商品が価値通りに売られるものだけでなく、技術的進歩はない等条件を列記するが、生産資本要素の価値は変動しており、貨幣資本の拘束や開放が行われ、循環の反復中の諸攪乱、相殺を起こし、そこまでの期間が長ければ、産業資本家は大きな貨幣資本を持つ必要があり、結合的大貨幣資本家の独占に移っていく。

